

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7450301号
(P7450301)

(45)発行日 令和6年3月15日(2024.3.15)

(24)登録日 令和6年3月7日(2024.3.7)

(51)国際特許分類

F I

B 2 6 B 3/00 (2006.01)

B 2 6 B 3/00 B

B 2 6 B 27/00 (2006.01)

B 2 6 B 27/00 E

請求項の数 11 (全10頁)

(21)出願番号	特願2022-580702(P2022-580702)	(73)特許権者	305017675
(86)(22)出願日	令和4年2月14日(2022.2.14)		矢口 太郎
(86)国際出願番号	PCT/JP2022/005567		東京都千代田区二番町5-6 あいおい
(87)国際公開番号	WO2022/173031		ニッセイ同和損保二番町ビル8階
(87)国際公開日	令和4年8月18日(2022.8.18)	(74)代理人	100104411
審査請求日	令和5年3月7日(2023.3.7)		弁理士 矢口 太郎
(31)優先権主張番号	63/149,133	(72)発明者	矢口 太郎
(32)優先日	令和3年2月12日(2021.2.12)		東京都千代田区二番町5-6 あいおい
(33)優先権主張国・地域又は機関	米国(US)		ニッセイ同和損保二番町ビル8階 恵泉
早期審査対象出願		審査官	国際特許事務所 須中 栄治

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 カッター器具

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

一端にガイド面が形成されてなる本体と、
基端部がこの本体に装着され、先端部を前記ガイド面から突出させてなるカッターと、
前記本体に前記ガイド面及び前記カッターの先端部を挟んで隠すように取り付けられ、
少なくとも一方が前記ガイド面を支点としてカッターに対して閉じる方向及び開く方向に
移動し、開く方向に移動することで、前記カッターの先端部を露出させる一対のカバー片
とを有し、

前記カッターの先端部は尖った先端を有し、このカッターは、前記先端が上記基端部よ
りもこのカッターの進行方向に沿う前方に突出するように前記本体に傾けて取り付けられ
ており、

前記カバー片には、このカバー片が前記カッターの先端部を挟んで隠した状態で前記先
端を外部から目視するためのぞき穴が設けられているものである

ことを特徴とするカッター器具。

【請求項2】

請求項1記載のカッター器具において、

前記カバー片と本体との間には前記カバー片を開閉動作可能にするためのヒンジ部が設
けられている

ことを特徴とするカッター器具。

【請求項3】

請求項 2 記載のカッター器具において、
前記ヒンジ部は、前記カバー片を閉じる方向に付勢するように構成されているものである
ことを特徴とするカッター器具。

【請求項 4】

請求項 2 記載のカッター器具において、
前記カバー片と本体は一体部品として構成されており、
前記ヒンジ部は、このカバー片と本体との境目にスリットを設けることで形成されてい
るものである
ことを特徴とするカッター器具。

【請求項 5】

請求項 4 記載のカッター器具において、
前記スリットは前記ガイド面と平行に設けられている
ことを特徴とするカッター器具。

【請求項 6】

請求項 1 記載のカッター器具において、
前記本体は前記カッターを挟む方向に分離可能な 2 以上の部品で構成され、前記カッタ
ーの基端部を挟んで接合されることで、前記カッターの先端を前記ガイド面から突出させ
た状態で保持するものである
ことを特徴とするカッター器具。

【請求項 7】

請求項 1 記載のカッター器具において、
前記本体のガイド面は、紙の折り曲げられた頂線を案内するためのものである
ことを特徴とするカッター器具。

【請求項 8】

請求項 1 記載のカッター器具において、
前記カバー片の開き角はカッターを基準にして 90 度以下に規制されている
ことを特徴とするカッター器具。

【請求項 9】

請求項 1 記載のカッター器具において、
前記カバー片の開き角はカッターを基準にして 60 度以下に規制されている
ことを特徴とするカッター器具。

【請求項 10】

請求項 1 記載のカッター器具において、
前記カバー片の開き角はカッターを基準にして 45 度以下に規制されている
ことを特徴とするカッター器具。

【請求項 11】

請求項 1 記載のカッター器具において、
前記 1 対のカバー片は、閉じた状態で、両者を開かないように着脱自在に結合するファ
スナー手段を有するものである
ことを特徴とするカッター器具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、手紙や封筒、包装紙などを所定の折り目に沿って切断するための安全なカッ
ター器具、特にペーパーカッターに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、封筒を開封するためのペーパーオープナーと称される商品がある。

【0003】

このペーパーオープナーは、尖った先端部を切断したい紙の部分の裏側に侵入させ、次

10

20

30

40

50

いで切断したい線に沿って移動させることで、所定の線に沿って紙を切断することができるというものである。

【0004】

しかしながら、これらの製品は紙を切断するカッターの部分が露出しており、使用方法によっては使用者がこのカッターに触れてしまうという危険性があった。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

この発明は、前記のような事情に鑑みてなされたものであり、より安全なカッター器具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前記目的を達成するため、この発明の主要な観点によれば、以下の発明が提供される。

【0007】

(1) 一端にガイド面が形成されてなる本体と、

前記本体に装着され、前記ガイド面から先端部を突出させたカッターと、

前記本体に前記ガイド面及びカッターを挟んで隠すように取り付けられ、少なくとも一方が前記ガイド面を支点としてカッターに対して閉じる方向及び開く方向に移動し、開く方向に移動することで、前記カッターの先端部を露出させる一対のカバー片とを有する

ことを特徴とするカッター器具。

【0008】

(2) 前記(1)のカッター器具において、

前記カバー片と本体との間には前記カバー片を開閉動作可能にするためのヒンジ部が設けられている

ことを特徴とするカッター器具。

【0009】

(3) 前記(2)のカッター器具において、

前記ヒンジ部は、前記カバー片を閉じる方向に付勢するように構成されているものである

ことを特徴とするカッター器具。

【0010】

(4) 前記(2)のカッター器具において、

前記カバー片と本体は一体部品として構成されており、

前記ヒンジは、このカバー片と本体との境目にスリットを設けることで形成されているものである

ことを特徴とするカッター器具。

【0011】

(5) 前記(4)のカッター器具において、

前記スリットは、前記ガイド面と平行に設けられている

ことを特徴とするカッター器具。

【0012】

(6) 前記(1)のカッター器具において、

前記本体は前記カッターを挟む方向に分離可能な2以上の部品で構成され、前記カッターの基端部を挟んで接合されることで、前記カッターの先端を前記ガイド面から突出させた状態で保持するものである

ことを特徴とするカッター器具。

【0013】

(7) 前記(1)のカッター器具において、

前記本体のガイド面は、紙の折り曲げられた頂線を案内するためのものである

ことを特徴とするカッター器具。

【0014】

10

20

30

40

50

(8) 前記(1)のカッター器具において、
前記カバー片の開き角はカッターを基準にして90度以下に規制されている
ことを特徴とするカッター器具。

【0015】

(9) 前記(1)のカッター器具において、
前記カバー片の開き角はカッターを基準にして60度以下に規制されている
ことを特徴とするカッター器具。

【0016】

(10) 前記(1)のカッター器具において、
前記カバー片の開き角はカッターを基準にして45度以下に規制されている
ことを特徴とするカッター器具。

10

【0017】

(11) 前記(1)のカッター器具において、
前記1対のカバー片は、閉じた状態で、両者を開かないように着脱自在に結合するファ
スナー手段を有するものである
ことを特徴とするカッター器具。

【0018】

なお、前記に記載された以外の特徴については、以下の実施形態及び図面に開示されて
いる。

【図面の簡単な説明】

20

【0019】

【図1】図1は、この発明の一実施形態を示すペーパーカッターの斜視図。

【0020】

【図2】図2は、同じく、斜視図。

【0021】

【図3】図3は、同じく、使用時の形態を示す斜視図。

【0022】

【図4】図4は、同じく、ペーパーカッター内部の平面図。

【0023】

【図5】図5は、同じく、紙とペーパーカッターの位置関係を示す概略図。

30

【0024】

【図6】図6は、同じく、切断工程を示す概略図。

【0025】

【図7】図7は、同じく、切断工程を示す概略図。

【0026】

【図8】図8は、同じく、切断工程を示す概略図。

【0027】

【図9】図9は、同じく、切断工程を示す概略図。

【発明を実施するための形態】

【0028】

40

以下、この発明の一実施形態を図面を参照して詳細に説明する。

【0029】

図1は、この発明のカッター器具としてのペーパーカッターを示す全体構成図である。

【0030】

(構成)

図に1で示すのは、本体である。この本体1は、例えば一面と他面とを有する例えば約
2～3mmの厚さを有する平板状の部材である。そして、この本体1には、この本体1と
面一かつ一体的に形成され、この本体の外側に向かって開放する一対のカバー片2、2が
設けられている。

【0031】

50

前記本体 1 の、前記カバー片 2、2 との接合部に対応する部分には、前記一対のカバー片 2、2 の間に、切断したい紙を一方向（矢印）に沿って案内するための直線状ガイド面 3 が形成されている。

【0032】

そして、前記本体 1 と一対のガイド片 2、2 の接合部には、図 2 に示すように、その外表面に、前記ガイド面 3 に平行に設けられたスリット 4 が設けられ、このスリット 4 の入った部分がヒンジとなって前記カバー片 2、2 は本体 1 に対して図に矢印で示すように開閉するようになっている。

【0033】

また、前記本体 1 は、図 4 に示すように 2 つの部品（図 4 はそのうち一方の部品）に分割されて構成され、カッター 6（この実施形態では長さ 40 mm のデザインナイフの刃）が内装されており、基端部を前記本体 1 の装着溝に保持させた状態で、先端部 6 a が前記ガイド面 3 から前記カバー片 2、2 の間に向かって突出するように設けられている。ここで、カッター 6 の先端部 6 a の突出量は前記カバー片 2、2 が閉じた状態でこのカバー片 2、2 を超えて外側に延出しない量に設定されている。

【0034】

また、カバー片 2、2 には、前記カッター 6 の先端部 6 a をカバー片 2、2 の外側から確認するためののぞき穴 7 が形成されている。こののぞき穴 7 の径は例えば 10 mm 以下に形成され、ユーザの指がこののぞき穴に入ってしまうことを防止できるようになっている。

【0035】

すなわち、このカバー片 2、2 を閉じている場合にはカッター 6 の先端部 6 a は完全に隠されており、図 3 に示すように、このカバー 2、2 を開くことにより目視可能なように露出させることができるようになっている。

【0036】

なお、この実施例では、前記スリット 4 の幅及び深さを調整することにより、前記ガイド片 2、2 の開き角（図 6）は 180 度以下、若しくは 120 度以下、若しくは 90 度以下、若しくは 60 度以下、若しくは 30 度以下になるように規制されている。また、前記スリット 4 の深さなどを調整することにより、このカバー片 2、2 は閉じる方向に付勢されている。

【0037】

（使用方法）

図 5 に示すように、本体 1 と紙 10 の位置決めをする。ここで、紙 10 は切断したい線 11、すなわち切断線（折り目）で 2 つ折りにする。そして、切断を開始したい側と、前記ガイド面 5 とが整列するように対向させる。

【0038】

次に、図 6 に示すように、カバー片 2、2 を若干（例えば約 60 度）開いて前記折り目 11 とカッター先端 6 a を対向させて前記折り目 11 の裏側の前記紙 11 の間に挿入する。

【0039】

カッター先端 6 a を挿入できたならば、図 7 に示すように、前記紙 10 の角度を元に戻し、再び折り目 11 とガイド面 5 を整列させる。

【0040】

ついで、本体 1 を折り目の方向（矢印）に沿って移動させる。このことで紙を切断できる（図 8、図 9）。

【0041】

以上、本発明の一実施形態を説明したが、本発明は前記一実施形態に限定されるものではなく、発明要旨を変更しない範囲で種々変形可能である。

【0042】

例えば、前記一実施形態では、一対のカバー片 2、2 の両方が動いて開閉するものとしたが、少なくとも一方のみが開閉する構成であっても良い。

10

20

30

40

50

【0043】

また、前記実施形態では、前記カバー片2、2はスリット4を形成することでヒンジ部を構成することで開閉かつ閉じる方向に付勢されるものであったが、スリットを設けず部材の弾性だけで同様の動作を奏するように構成しても良い。また、前記ヒンジ部はスリットではなく、物理的・機械的なヒンジ機構で構成しても良い。この場合には、上位本体1とカバー片2は別部品としても良い。また、閉じる方向に付勢するために、前記ヒンジ機構にばね等が取り付けられていても良い。

【0044】

また、カバー片2、2の最大開閉角度は90度（カッター6を基準にすると片側45度）であったが、120度、60度、30度（カッター6を基準にすると片側60度、30度、15度）の角度に規制するものであっても良い。そして、前記カバー片2、2は、開いている状態で離すとヒンジの付勢力（復元力・ばね力）により自然に元の状態に閉じるように構成されていることが好ましく、この場合、例えば、前記のように開く角度を規制せず、本体の表面に当接するまで開くような構造にして、このカバー片2、2と本体とをボタン等のファスナー手段により着脱自在に固定できるようにしても良い。また、前記カバー片2が閉じている状態においては容易に開かないように、開いている状態を保持するためのスナップボタン等（フック等でも良い）のファスナー手段（ば図4に13で示す）をカバー片2、2の互いに対向する位置に設けて閉じている場合にはこのファスナー手段に係合させるようにしても良い。

【0045】

さらに、前記ガイド面5は直線であったが曲面であっても良い。

【0046】

また、前記実施形態においてはカバー片2にナイフ6の先端部6aと紙との位置合わせをするためののぞき穴7が設けられていたが、これは、例えば保護カバーを透明部材で作製する場合、不要である。また、透明部材で作製しない場合でも単に設けない構成となっても良い。

【0047】

さらに、カバー片2、2の外形は、閉じたときにカッター6の先端6aを安全に覆うことができる形状であればどのような形状であっても良い。また、カッター6の角度も、前記一実施形態のものに限定されるものではなく、カッター6が前記ガイド面5からほぼ垂直に延出するような構成であっても良い。

【0048】

また、カッターの形状や素材は前記一実施形態したもの限定されるものではなく、例えば、金属製でなくてもセラミック、プラスチックや木材製であっても良い。さらに、上記実施形態では、前記本体は2分割され、その間にカッターを挟んで保持する構成であったが、本体は2分割される必要はなく、また、カッターと本体は一体部品（例えばセラミックやプラスチック）で形成されてカッターの先端部のみが上記ガイド面から突出しているものであっても良い。

【0049】

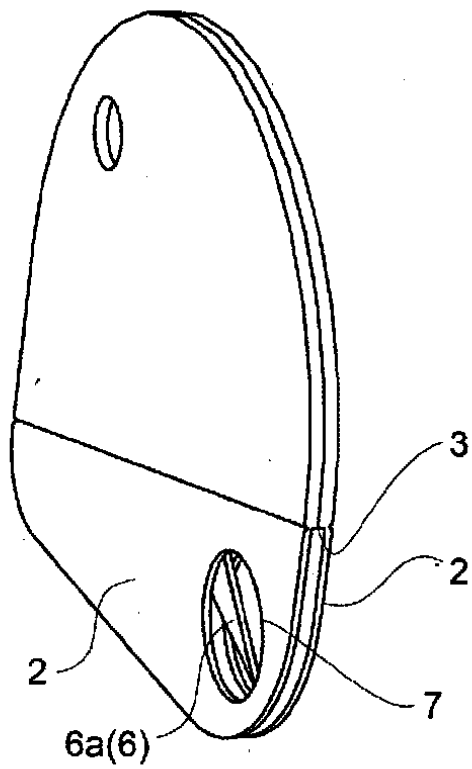
さらに、この発明のカッター器具はレターオープナーとして用いられるものに限定されるものではなく、他のもの、例えば段ボール箱等を開けるために用いられるものであっても良い。この場合には、上記カバー片を段ボール箱の表面に当接する角度（180度や90度）まで広げて用いるようにすれば良い。

【符号の説明】

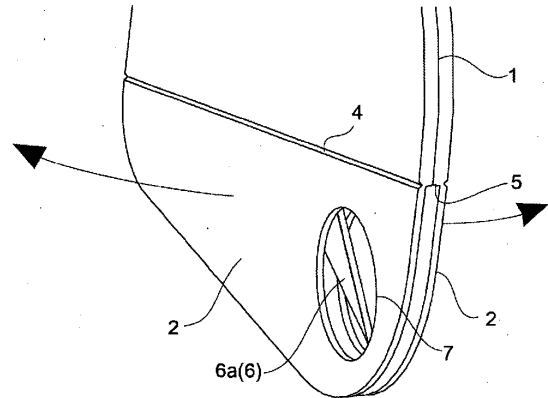
【0050】

- 1…本体
- 2…カバー片
- 3…直線状ガイド面
- 4…スリット
- 5…ガイド面

- 6 … カッター
7 … のぞき穴
10 … 紙
11 … 切断線（折り目）
【図面】
【図1】



【図2】



10

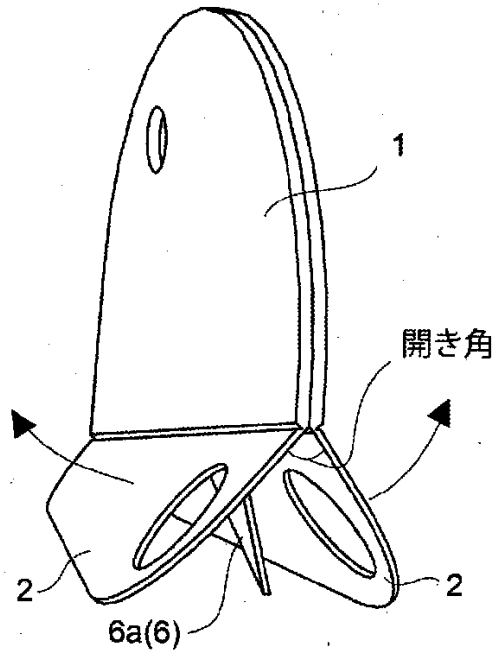
20

30

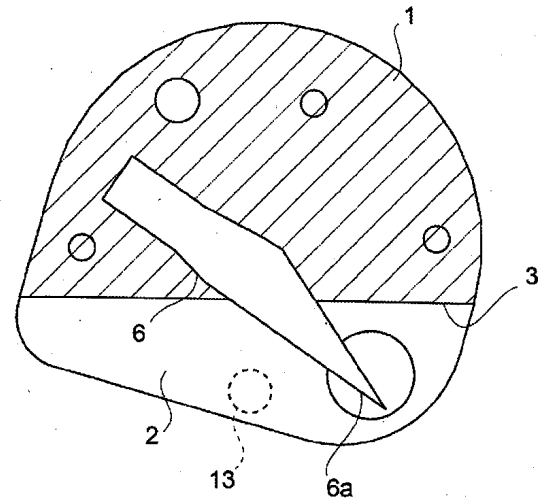
40

50

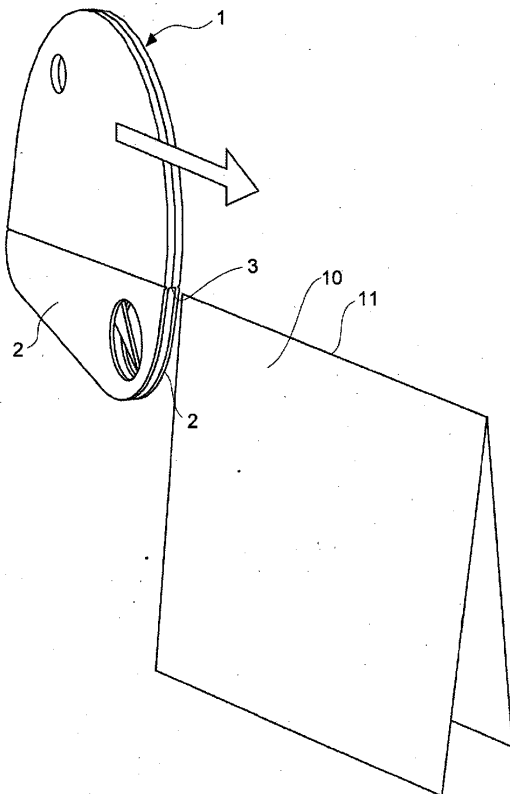
【図 3】



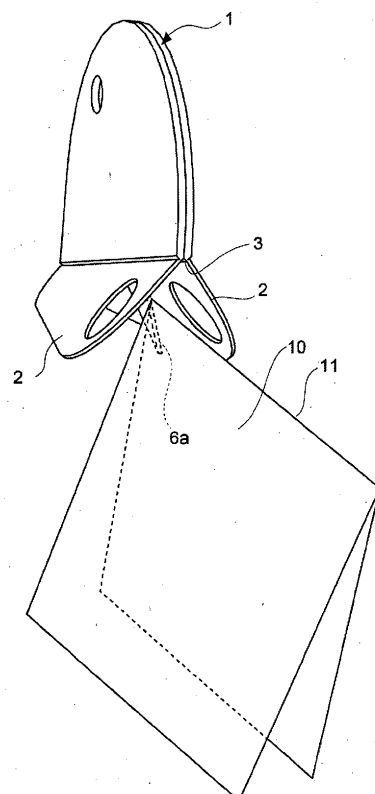
【図 4】



【図 5】



【図 6】



10

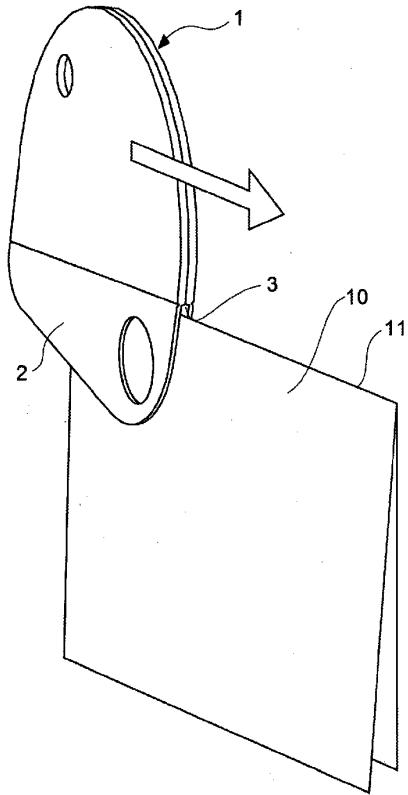
20

30

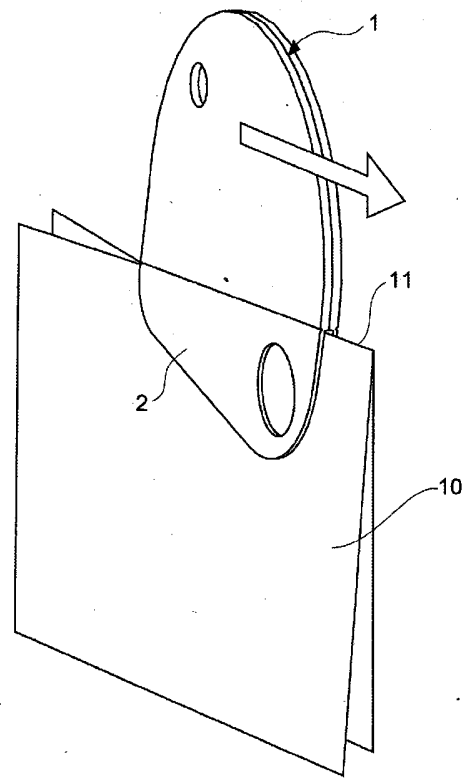
40

50

【図 7】



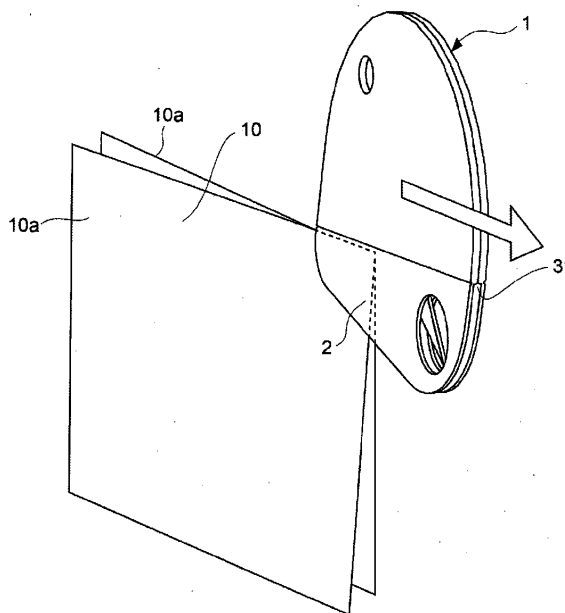
【図 8】



10

20

【図 9】



30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 0 4 - 0 4 9 2 4 7 (J P , A)
特開平 0 5 - 1 3 7 8 5 6 (J P , A)
実開平 0 5 - 0 6 0 4 7 3 (J P , U)
実開平 0 4 - 1 0 2 9 7 4 (J P , U)
実開平 0 6 - 0 0 0 3 5 3 (J P , U)
実開平 0 5 - 0 9 5 4 7 2 (J P , U)
実開平 0 4 - 0 9 3 0 6 6 (J P , U)
特開 2 0 1 8 - 1 1 7 8 6 3 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., D B 名)
B 2 6 B 1 / 0 0 - 1 1 / 0 0
B 2 6 B 2 3 / 0 0 - 2 9 / 0 6